

## 私のすすめるこの1冊

巻本 彰一 (理学科 教授)

### 『ゼロからつくる科学文明：タイムトラベラーのためのサバイバルガイド』

ライアン・ノース (著)、吉田三知世 (訳)

この本は副題に書かれているように、タイムスリップにより大昔に行ったとして、そこでタイムマシンが故障して元の世界に戻れなくなったとしたら「あなたはどう生きていきますか」というサバイバルガイドの様式で書かれています。例えば、食物が何もない状態から、何が食べられて何が食べられないか、毒味はどうするのか、という方法が具体的に書かれています。実際にはそのような旅をする機会があるわけではないので何の役にも立たないように思ってしまうのですが、サバイバル方法の説明を読んでいくと、「我々はどのようにして古代から文明を創ってきたのか」ということを振り返ることができる内容となっています。

人類はその歴史の中で色々なことを発明してきました。文字にしても、数字にしても、小数や分数にしても、現在我々が普段普通に使っているものは人類の英知の積み重ねです。しかし、現代文明は多くの人間と原人が数百万年かけて創り上げてきましたが、最初の時は自分たちが何をやっているかもよくわからず、手探りで進みながら全てを発明してきました。それゆえ時系列を傍観してみると、人類の歴史に刻まれた発明の物語は数え切れないほどの逃した機会と不要な遅滞の物語です。例えば、過去のある時点で既に発明されていた2つの技術が

融合して別の技術になるのに千年以上の時間を浪費したりと、エポックとなるような発明には相当な時間を費やしていることが普通でした。

興味深いことには、各章にある年表から、産業革命後は人の移動が簡単になったので、人と人が会いやすく（議論しやすく）なり、発明の間隔が狭まることがわかります。現代はインターネットの発達により、人と人が出会わなくても地球の裏側の出来事も簡単に知ることができます。そのため加速度的に新しい技術の融合が進んでいくので、未来の人類にはパソコンのクロック数並の判断力（処理能力）が必要となるような気がしてきます。

この本は、文明を再びゼロから作り上げる方法を正確に説明しようという誠実な努力によって生まれ、一人の人間が文明を基礎から築き上げるのに必要な科学、技術、数学、美術、音楽、著作物、文化、事実、数字について記載されています。全549頁もある分厚い本であり、正確に記そうとして少し哲学的で難解な表現等もありますが、現代文明では、あるのが当たり前になって気にもかけていなかったことを、黎明期から問い直させてくれる面白い本でした。ページが多いのですが、興味のある章から少しずつ読むと疲れずに読めると思いますので、理系以外の方にもおすすめします。

## 図書館の開館について

対面授業休止期間、図書館は短縮開館（9時から17時まで）となります。なお、2月7日（日）は開館しますので、どうぞご利用ください！



## 郵送貸出サービスの実施について

附属図書館では、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い対面授業が休止となっている間の学習・研究支援策として、学生の皆様に郵送貸出を実施しておりますので、どうぞご利用ください。詳細は一括送信メールや附属図書館ホームページにてお知らせしております。

## 春季長期貸出について

大学院生・教職員につきましては2021年1月14日（木）より春季長期貸出を開始予定としておりましたが、対面授業休止に伴い、学部生の皆様につきましても大学院生・教職員と同じく2021年1月14日より長期貸出を開始とし、また、学部生・大学院生で現在借りている資料の返却期限日が対面授業休止期間に当たっている方の返却期限日を2021年4月19日（月）といたしました。（ただし、卒業・修了予定の方は2021年3月10日（水）までです。）ご本人による手続きは不要です。ご返却は返却期限日までにカウンターで返却するか、休館中は返却ポストをご利用ください。

## 報告：第2回教育展『「おかね」の歴史とデザイン—京都教育大学所蔵古紙幣の世界—』

2020年11月19日から12月25日にかけて附属図書館1階企画展示室にて、第2回教育展として『「おかね」の歴史とデザイン—京都教育大学所蔵古紙幣の世界—』が教育資料館（まなびの森ミュージアム）の主催、附属図書館の共催のかたちで開催されました。

さて、教育資料館には、江戸時代から明治時代の初め頃に使われたお札（古紙幣）が1,100点以上も所蔵されており、全国的にも貴重なコレクションとなっています。一方で、近年の学校教育では、お金や金融の学習を通じ、暮らしや社会について深く考え、よりよい生活・社会の実現に向けて、主体的に行動できる態度を養うことの重要性が唱えられています。そのため企画展では、学校教員を目指す学生や本学関係者はもちろん、各種の学校園で本学所蔵の古紙幣を積極的に活用してもらえるような環境の整備が目指されました。

そこで今回注目したのが、古紙幣が持つデザインの豊かさです。具体的には、古紙幣のデザインに込められた工夫に迫ることで、当時なりのユニバーサルデザインへの考え方や、偽札対策のあり方を追究しました。また、古紙幣に描かれたモチーフを読み解くことで、それらを受容した人々の心性を探りました。なお、尼崎市立歴史博物館からは、偽札対策の工夫が施された「銀十匁札版木」（尼崎市

指定文化財）をお借りすることができ、期間限定ながら展示をすることができました（開催初日から12月9日まで）。

COVID-19 対策の関係で、一般利用者の方（学外者、卒業生含む）の閲覧利用をお断りせざるをえませんでした。それでも延べ300名を超える見学者がありました。また、展示の様子と解説をYouTubeで公開するというはじめての試みも行いました。準備にあたっては、感染症が突きつける課題を改めて痛感することになりましたが、そのようななか各方面でご尽力いただいた教職員、学生にも感謝しています。最後に、本展示を通じて、古紙幣だけではなく、本学に所蔵している様々な「お宝」が広く知られ、学内外において適切に保管・活用されるようになれば幸いです。なお、教育資料館のウェブサイト上ではデータベース「江戸時代から明治時代初期にかけての紙幣」も公開しています。あわせてご利用下さい。



中村 翼（資料館次長、社会科学科教員）



京都教育大学  
それはかなう夢講座

「先生になりたいーそれはかなう夢」は、京都教育大学のシンボルフレーズです。「それはかなう夢講座」では、本学の教職員が、学部、大学院のすべての専攻、研究科の学生や教職員の皆さんを対象に、科学の魅力をわかりやすくお伝えしていきます。特に、小学校の先生になりたいと思っている学生の皆さんのご参加をお待ちしています。

第25回の報告

YouTubeで公開されました（現在も視聴できますのでどうぞ！）

<https://www.youtube.com/watch?v=HOkJfwk262I>

【講師】天野知幸（国文学科）

【テーマ】文学で何を学べるか？



主催：「現代的ニーズを踏まえた「理系」教員養成のためのカリキュラム開発」プロジェクト委員会  
後援：京都教育大学同窓会・京都教育大学附属図書館

学修相談カウンター  
学修支援員のおすすめ本展示中

理科教育専修、数学教育専修の先輩たち（学習支援員）がいろいろな質問に対応してくれます。再開したら、色々相談してみてください。現在は学修支援員のおすすめ本を展示しています。

【展示場所】附属図書館北館2階

ラーニングcommons廊下側

【展示期間】2月10日（水）まで



相談カウンターは、現在お休みです。再開したらどんどん利用してね！！



企画展示室報告

◆立体作品展：彫刻研究室

1月6日（水）から展示中です。

来館の際は是非ご覧ください。



ブックレポート展示コーナー

テーマは「真面目に勉強」はカッコ悪くない！一歩先を行きたい京教生のためのおすすめ本！

必修科目「教育の理念と歴史」との協同事業として、受講生が選んだ図書館の本と、内容やおすすめポイントをまとめたブックレポートをセットにして館内に展示しています。学生目線で選ばれた本をぜひ手にとって読んでみてください！

【展示場所】南館2階 階段付近

【展示期間】2月10日(水)まで



児童書コーナー（南館1階）



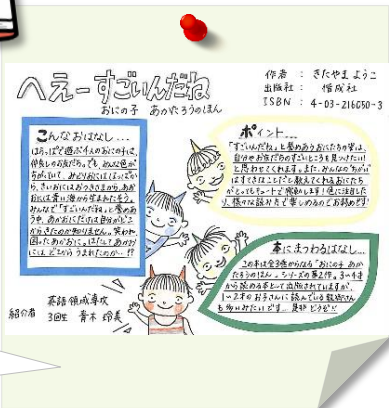
学生による絵本のよみきかせ

★しばらくお休みです。

今月の絵本カード  
（学生作）

『へえーすこいんだね』

作・絵：きたやま ようこ  
出版社：偕成社



※児童書コーナーに展示しています。他にも毎月かわいいカードが飾られていますので、ぜひ見に来てください。

教育資料館  
まなびの森ミュージアム

今月の逸品

「雪中梅」

展示場所：図書館



教育資料館 まなびの森ミュージアム  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/museum/>

## 論のくちび理のむすび

今回の執筆者 **檜下 達也** (音楽科 准教授)

### 子どもと楽器の出会いのプロセス —幼稚園の音楽活動と小学校器楽教育の接続に着目して—

檜下 達也・平井 恭子・樫山 ゆかり・高野 史朗・中東 静香・古賀 松香  
京都教育大学紀要 2020, No. 137, pp. 173-189

みなさんが「楽器」というものに初めて出会ったのはいつのことでしょうか。そしてそれはどのような出会いでしたか。そもそも楽器と出会う、というのはどういうことなのでしょう。習い事としてピアノを始めた、幼稚園の合奏でタンブリンを演奏した。そういうことが「楽器との出会い」なのか…。例えば、ある子どもが竹の筒を棒でコン、コン、と鳴らしているとします。その子は面白くなってそれを続けるうちに強弱や速さを変えて遊び始める。こうして鳴らされた音は「ただの音」ではなく、もはや音楽の要素(強弱やテンポ)を含み始めている。とすればその竹はただのモノではなく楽器としての機能を持ち始めているのではないのでしょうか。

本論は、こうしたテーマに関心をもつ附属幼稚園教員、幼児教育科および音楽科の教員が共同で取り組んだ1年間の保育実践の研究を報告したものです。まずは5歳児を対象に、竹や空き缶、段ボール箱のような「音のなるモノ」や、小さな民族楽器など「未知の楽器」と出会う場として「音遊びコーナー」を設置しました。そこでの自由な試行的活動の合間に、同じモノや楽器を使った「大人によるコンサート」や「音遊びワークショップ」を実施しました。そうした経験を通して、子どもたちがどのように「音のなるモノ」を「楽器」として認識し直し、音楽表現への興味を高めるのか、そしてそれはどのように小学校の器楽教育に繋がり得るのか。そのようなことを考察しました。

子どもたちが音や音楽で遊びながら、生き生きと活動する姿をとらえた論稿です。ご興味のある方は是非ご一読ください。

※本タイトルの論文は京都教育大学紀要 137号に掲載されています。

※京都教育大学リポジトリ「クエリ(KUER)の森」<https://ir.kyokyo-u.ac.jp/>に掲載されています。

開館日程 □9:00-21:00 ■9:00-17:00 ■休館(CLOSED)

2021年2月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

2/4-2/10 後期末試験  
2/25-2/26 前期入試

※開館日程につきましては、変更となる場合がございますのでホームページをご確認ください。

2021年3月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

3/3 館内整理日  
3/12 後期入試  
3/22 前期・後期入試追試験  
3/25 卒業式

●京都教育大学附属図書館ホームページ  
<https://www.kyokyo-u.ac.jp/library/>

●携帯版 OPAC (QRコード)   
<https://toshok2.kyokyo-u.ac.jp/webopac/mobtopmnu.do>

京教図書館 News No.245 (2021年2月号)  
発行日:2021年2月1日  
編集発行:京都教育大学附属図書館  
問い合わせ先:library@kyokyo-u.ac.jp

国立大学法人  
**京都教育大学**  
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION